

「戦争を止めよう」と書かれたプラカードを持つて参加する（左から）カタギリ・ナターシャさんとボボバ・イリナさん

「水・食べ物・電気ない」 地元の現状 ウクライナ人語る

「私が働いていた病院が（攻撃で）破壊された。救急車も攻撃されたと聞いた」。5日のパレードの参加者で医師のボボバ・イリナさん（30）が、ウクライナ語で語ってくれました。通訳したのは、共に参加した娘のカタギリ・ナターシャさん（40）です。地元は口

攻撃で「なくなった」といいます。パニック状態の友人から「信じられない」と電話がきました。「友人の、唯一の子どもだった」現地では、外が危険なため逃げることもできずシエルターで生活しています。その様子を「水も食べ物も電気もない」と電話で連絡を取っています。

ルクもない。食べ物を持っている人が分け与えていると聞いた」と話します。

電波がつながらないといいます。「たまにロシアの電波がつながるけど、一秒钟の短時間だけ」ナターシャさんは3週間前にウクライナ

に一時帰国していました。「まさか戦争になるなんて誰も思っていなかった。毎日ニュースを見て泣いている」

パレードに参加した思いをこう語ります。「お金賺る」とぐら

り、「一秒钟の短時間だけ」

が終わることを祈るしかできない。一緒に祈ってください

攻撃が始まった直後、イリナさんの友人の子どもが、車で道を走っている途中にミサイル

（2月24日）ロシアの

攻撃を受けているウクライナ東部のマリウポリです。

